櫻桜

発行所
郡山市外徳定字中河原1
日大東北工高同窓会
発行人　長谷川　武
編集人　広長　威彦

創刊に当つて

同窓会長　長谷川　武

大自然の法則に則りメイン・スエッチが暖かさから暑さに切り換えられ様として居る折り、同窓生諸兄も各地で奮闘の事と思う。本会も数々の希望を抱き、発会してより三年有余、経る事多難であったにもかゝわらず、顧る道の広さがうらめしい。――万感、いや深く茲に本会々報を発刊致します。度度の会合により研究して来たにもかゝわらず、刊行が遅れた事を先ずわびねばならない。又発会当時より、何くれとなく面倒を見ていただいた在校各顧問の先生方、転出された渡辺慶一先生に改めてお礼の言葉を申し上げます。本会の目的は言う迄もなく、会員相互の旧情親睦であります。それ故に本会の隆盛は会員の本会に対するかぎりなき心的発展であると思う。その意味から、会員の積極的協援がなくては砂上の楼閣にも劣ろう同窓会が一部の在郷者、有閑者、執行部のお座なりの機関に堕した例は幾らもある。格式ばった大きな会合より、小さくてもいゝ、お互いの心をはだかにして語り合える社会対人機関に、そして刊行物であり度い。お互いの心の苦しみお互いのよろこびをかくす事なく展げ得る広場にしたい。世に著者の夢は移ろいやすいと言う。経験から来る心的変化でもあろう。そうゆう刻々として起る我々の表裏の記録であってもほしい。一日のつかれを床に横たえる時、又作業衣のポケットに、此の会報をしのばせていたゞければ幸いである。十一万余坪の学園に美しいアカシヤの葉がくれに、西山の夕映えは美しい。だが感傷に酔いしおれて居る時ではない。更に完成へと近すく会報を諸兄の許に送り届けん事を念願に努力する事を誓つ。母校の隆盛を胸に、本会のかぎりない伸展と会員各位の無事多幸を祈つて発刊の辞とする。

創刊に思う

京濱支部長　國分　弘

〝ヤア！しばらく〟と今更気安く名乗り出る程の私ではありませんが、会報発刊の運びともなればそこは人情で一言ぐらいはシャベらせてもらいたいという気になります。卒業以来丸三年形式ばった事を好まない私でも此の際はやはりお目出度うと率直にお祝い申し上げる次第です。三年という年月を経て世の中を知りつくした様な気持になる頃で、実は何も知っていないわれ〳〵（失礼！オレだけかな）ですが、何か社会というもののリンカク程度の事はわかつて来た様な気がするのです。もちろん私のいう社会とは人間の感情を種々入り交えた世間、つまり理論上の社会でなく単なる俗世間という事になります。此処で私は茅屋というものを感じました。同窓生諸氏も少なからずそれを感じたでしょう。考えて見れば私は大人の世界を我々青年層の上にあるものの様に考え大人をむやみに信頼した感がありました。ところが世間に出て見てどうでしょう。彼等の一部は単なる子供の延長にすぎませんでした。むしろ悪い心持たない子供の方がよいとさえ思われる時もある位でした。その様な一面を見ていると私だつて考えずにおれません。年をとつてわれ〳〵もあなつてしまうのか、それをノホホント待つているのか、その中に物事を批判する力も思考力も失つてしまうとすれば…そうなる事は心然ではないか。それではどうすればよいか、オレ達はそうならずにすむんだ。とまあこう迄考えるのは誰でもでしょう。こうなると結局〝青年は青年の力で〟ということになりそうですが、それにはわれ〳〵お互の考えを話し合う事が何にしても大切な事ではないかと思うのです。もちろん勉強する事も必要でしょう。しかも同じ様な環境の中にあつてそれ〳〵に異つた生活をしている我々青年の批判力を高めるには話合うのが一番近道であり有効ではないかと思うのです。お互に話合う機関がつまりこの会報であつて欲しいのです。それによつて前にいつたよくわからない社会を少しでも知りたいと思うのです。解りかけたリンカクをはつきりさせたい と思うのです。

此れは私だけの望みでしょうか。いゝえ、働く者、勉学する者、我々青年であつたならだれでも望みであつていゝはずです。そこで更に私はこの機関紙への希望として第一に形式ばつた、かたくるしい機関紙にならずに一目見ていつの間にかそれに引き込まれて読んでしまう程やわらかいものにして欲しいのです。同窓生の家族や友人にも皆に読まれる様な機関紙であつて欲しいのです。第二には此の機関紙が会の上部のものとならぬ様、皆の意見がどし〳〵のせられる様なものにしていただきたいと思うのです。同窓生全員の手で構成された機関紙であつて欲しいのです。もしこの様な要素を含まない会報であつたならそれは単に表面のみの同窓会会報となり何らの意義も持たないものになるでしょう。外面的なもの、私はそうなる事を一番恐れるものです。大分個人的な理屈を申しましたが此れは決して無理な注文であるとは思えません。今後の同窓会発展の為に此の会報を百パーセント有効に利用出来る事を期待して口をふさぐ事にしましょう。まず発刊お祝の御あいさつ迄。

同窓會報の發刊に寄せて

學校長　江崎　伸市

阿武隈川畔、アカシヤの蔭に、文化の灯を点じたのは、終戦間近の昭和二十二年初夏の頃、専門部工科に始まり、茲に集まる学徒は近郷の人二百有余がその総てであった。やがて学部、工高と矢継早やに誕生、今日に見る三千五百余の学園となつた。終戦後の世相は、何れの敗戦国もが経験した国民の虚脱、無気力、卑屈、無軌道、追従、無秩序等、社会悪の総てに満ちて居た。此の時、東北の一角から呱々の声を揚げた我が東北工業高等学校は、可憐な東北弁の少年を以つて彩り、此地特有の木枯しの吹き荒ぶ日の彼等の紅潮した頬、飾り気のない地方弁だが、心に不屈の精神を宿す之等学徒は、荒れた戦後の日本を背負つて起つのだという意気に燃えて居た。戦後の社会も生産に依つて、民族の発展を期する以上之等青少年を高く評価して迎え入れる事は、当然の帰結である。此時に当り我が東北工業高校が、歳と共に興隆の一途を辿り、好況とはいえ創立日尚浅く、本年の迎く就職百パーセントを謳歌するのも決して偶然ではない。だが油断は禁物である。先輩諸士は重大な使命と責任を痛感し、母校の名誉と祖国の発展の為更に一層の教養と研究に精進して戴き度い。恰も本年は郡山学園創立十周年に当り七月三日記念式典を挙行し、大学最高主脳は勿論、朝野の名士を一堂に集め、大祝賀典が繰り展げられた。最後に東北工高学徒及び出身各位の健勝を祈るものである。

相互の慰勵を

顧問　遠藤　義男

目に青葉の好季節、阿武隈川のせせらぎの辺にアカシヤ林に囲まれる広大な学園の中で、大望を胸に秘めつゝ緑蔭に読書し、そして散策する爽快さは卒業生にとつては当低忘れ得ない感慨であろう。郡山学園創設十周年、わが工高もすでに四回の卒業生を世に送り出した。旧兵舎改造の校舎ではあるが、年々整備され体裁も内容も共に整い、恵まれた環境の中で今やわが校の校風と伝統が確立されようとしている時にあたつて、同窓生が互にはぐくまれた徽 章を掲示して更に一層の友誼を培い、同窓会がより健全に発展する事は同窓生はもとより、在校生にも将来のため如何に大なる意義があるかを思えば歓びと共に期待するところも大きい。

母校の現況

教頭　庄司　俊夫

同窓生諸君がそれぞれの職場で健全な活躍をされてる、そして優秀な成績を挙げつゝあるニュースを受けるたびに心から祝福して居ります。一方学園を巣立つた卒業生諸君は学校の、また後輩の情報を知りたい心でいつぱいであろうと考えます。その気持はよくわかります。そして母校の便りにより意義ある日常生活をつくりあげて行くものと信じます。時もよし同窓会報を発行する計画があると聞き真に当を得たことゝ考え賛成してこゝに近頃の学校を一つ二つ紹介致します。

一、昭和三十一年度卒業生の就職状況（三・四・一現在）
建設科九十名九九%、機械科九十二名一〇〇%、電気科八十六名一〇〇%、工化科二十九名一〇〇%、普通科二十九名九八%、卒業生三百五十一名（進学二十三名）
主な就職先、中村設計事務所、田島応用化学ヤチヨ工業、東京都建設局、鹿島土建、富士重工、日産自動車、日本電子興業、日本変圧器、本田技研、山下電気、春日無線等。

一、新入生
昭和三十二年度入学六百七十余名未だに満多い社会状勢では、一人の努力や忍耐だけでは、あまりに道が遠く険しい。同窓の灯火のもとに相集い、相通いして、後輩は安んじて先輩の後に続き、先輩は温かに後輩の手引きとなり、互に心の慰めと励ましを献示して人生高揚の欠くべからざる糧として謳美出来るまでになる様、口誉顕つて止まない。

生徒総数千五百余名となり、県下第一の陣容となつた、先生と生徒と一体となつて健全な実力と氏類なき校風を築くことによつて東北一となるも遠いことではないと思ろう。

一、教職員の動き
三月末までに退職された先生と職員。
桜内理三郎先生死去、阿部彦三、諸橋明、宗像太三路、鶴田正子諸先生、柳沼敏、鹿野寛巳、斎藤新渡部光男君等。
新任の先生
重富昇、佐々木慶弘（体育）小林磐子（家庭）助川利正、高田二（電気）大槻昇、塩田正弘、塩谷郁夫（一般）の諸先生。
専任の教員四十九名、指導員四名計五十三名。

發刊を祝して

生徒会長　關根　利彦

私達在校生の先輩、同窓会が会報を創刊致します事は、異常とも言うべきよろこびを感じます。在校生の下級、上級を問わず残す所幾ばくもなく、学窓を去らねばなりません。実業校故にその大半は職業に就きます。こんな波の高い温床の中に居てさえ観念的な社会の波を感ずる時、先輩諸兄がこぞつて会報を発行する事は、私達に取つてほんとうに、力強く思つています。同窓会のいろ〳〵な機関、会合を通じて、休験を発表していたゞけるものなら私達には何かしら益する所が多いと信じます。一冊の教科書、一冊の参考書にも匹敵し得ると思います。何うぞ私達も次々と社会に飛び出しますから面倒を見て下さい。先輩諸兄の御健勝をお祈り致します。

学園10周年記念式典
新校舎落成を兼ね

日大郡山学園は本年六月で十周年を迎え、新校舎の落成も兼ねて、七月三日午後一時より盛大に祝賀会を催した。式は永田学長の開式の辞に始まり、呉総長の挨拶、古田理事長の経過報告、続いて知事代理県出納長、丹治郡山市長、星郡山商工会議所会頭等来賓各位の祝辞があつて、その後祝宴に移り三時半大祝賀会は無事終了した。

学部新校舎は二号舎と三号舎の間に建坪七百余名有し、鉄筋コンクリート三階建の堂々たる近代建築である。（写真は竣工した学部新校舎）

高校も近く予定

学部新校舎に引続き、高校々舎の建設計画も進んでおり、学部校舎の約二倍位のものを近年中に建設の予定である。

京濱支部に分會

東浜支部では地区在住者との連絡を密にする為、次の様なブロックに分け、各ブロックに役員を置くことにした。

Aブロック
千代田、中央、港、渋谷、品川目黒、世田谷（七区）

Bブロック
新宿、中野、文京、豊島、杉並板橋、練馬、北多摩、調布（九区）

Cブロック
江東、墨田、台東、江戸川、葛飾、足立、北、荒川（八区）

Dブロック
大田及び京浜地区（含む関東各県）

分会役員
A　山内稔（電通一）高原広康（工化二）
B　平田雪二（電力一）大山照男（電力一）会田徳雄（電力二）
C　村上邦夫（電力一）
D　国分弘（電力一）清水卯祐（電力一）

尚京浜支部の連絡先は
神奈川県川崎市白石町一
東京電力汐田火力発電所内
国分　弘

同窓生の動向

創立以来卒業生を出すこと四回、同窓生の動向を就職県別に見ると福島県九二三名、東京都二〇四名神奈川県二九名、栃木県一二名、埼玉県七名、千葉、新潟両県が四名茨城、静岡、山形県が三名、北海道、山口、群馬県二名、大阪青森宮城、岩手県が一名となつており又米国にも一人進出している。

第三回定期総會

第三回定期総会を左記に依り開催いたします。会員多数の出席をお願い致します。

記
日　時　八月十一日（日）午後一時
場　所　母校大講堂
会　費　二百円

●会費の納入により出席と認めます。
●会費は準備の都合上八月五日までに願います。
●送金は同封の振替用紙を御利用下さい。
◉出席不可能の場合は名簿作成準備上、職業及住所、氏名、期生を名記して本部又は支部へお送り下さい。

事務用品専門店
アルバム各種
株式会社　野田文具店
郡山市本町　TEL377
（東北工業高校納品店）

教養をたかめるための
讀書
良い本の店
鳩は書房と
郡山市さくら通り
電話　一七三五

オンキヨーテレビとラジオ
HiFi電蓄・ラジオ、山水、アイワ、トリオ
パイオニア、ニート各新製品入荷
電氣のデパート
東亜電機
郡山市本町　TEL2262

ハードクリーム
は天下一品
ソフトも素晴しいですが
日本一
さくら通り　モシモシ839

（カット＝広長威彦）

放送技術者の番組制作の精神

電通一期生　佐久間幹夫

蔑視されあればラジオに耳を傾ける私だが、因果なことに、「ラジオ」と言う文化的な娯楽は何物かに取去られてしまったらしい。即ち、技術者たる私には一分のよどみもなく、ラジオから流れて来る番組の総てが、自分のそれと比較されて感じたり批判したりおよそ「楽しむ」と言う境地から程遠いのである。

民間放送の放送技術者として四年来私の歩んだ道はラジオにしばられ、単なる技術者としてではなく民放の特産物たる売るための番組と言う商品を設計し、製作するための存在であつた様である。それらは一種の感激をこめて作りそこに私達の苦悩があり、同時に喜びと誇りがある。生み出す悩み……そんな言葉があるが、自分が精魂を傾けた番組とは他人には分からない愛情があり、愛着がある。そんな番組である商品は、見かけの外的なものであつてはならないと技術の担当の私にも番組の芸術性や社会性の重大さを感じ、報道関係の社会に及す影響の大きさを今更ながら恐しい気がする。

そんなとき技術者としてそれを製作するとも小さい望みながら芸術性を含んだ、万人に共感を呼ぶ番組を謙虚な気持で作りあげることと、通俗、平凡、大衆性と言う重大な商品の要素を忘れず大衆に愛され、大衆に求められそして親しみを持たれる、それを作る様努力して居るのである。その時こそ、それが芸術作品と認められると思い未熟な民放技術者の望みもかないられると少なざる期待をして居る。（ラジオ福島技術部勤務）

〝人生は未知との戦〟

電力一期生　村上邦夫

第一回同窓会々報を発刊するに当りお祝を申し上げます。我々は学校を巣立つてから、未知の実社会に飛び込んだ訳であるが、未知の世界を前進する事は、絶えざる大きな勇気が必要であると言う事を痛感するものである。これから、社会人となる方々に対しては、大きな勇気を持つて困難を打開する事を希望します。およそ学生々活に於いて、又個人としての日常生活に於いて、我々は絶えず困難に直面するものである。然し常にこれと戦い、打ち勝つ処に人生の妙味が有り、又人間そのものが完成への前進でも有ると思います。諺に「生活する事は奮闘する事である」と言うのがあるが、人生の一面は、確かに困難を征服する奮闘そのものであります。勇気の乏しい消極的な人は、困難に当面するとこれに耐え忍ぶ事は容易でなくついには外からの誘惑に負けてしまう事が多いが、勇気に富めるものは少しも恐れず、寧ろこれに耐え進み、これと戦つてついにそれを征服するのです。世に成功したと言われる人は、常に困難に耐え人生の辛酸を味わい非常な試練と努力の下に、自分の長所を磨く事に、自ら突き当り且つ前進したのです。人は全て大志を抱く事は必要で有るが、余りにも大きな身分不相応な希望を持つて戦つてもその目的は必ず達成されるものではない。従つて自分をはつきり知り長谷川会長始め役員各氏が長い間努力されて、今度同窓会会報が活字になつて、我々始め同窓生諸氏に読まれるということは、益するところが非常に大きいと思います本来人間には長所短所などがあります。この発刊にあたり同窓会々報を通じて同窓生諸氏が互に遠く離れていても話し合うことが出来る事を切望し、益々同窓生の団結と発展を祈り御祝申し上げます。社会に巣立つて感じたことを記してくれといわれましても同窓生諸氏に益があるか否か疑問ですが先礼ながら一筆啓上致します。

毎年度困難なる就職について誰しも卒業間近かになると良い所に就職出来ないとか、職がないとか選定に困却するが、人間は一つの職業で満足の行く人は少ないと思います。私事体験を通じて反省させられました。東京という名の都市は種々さまざまな人がおり、天皇又は職業から乞食という職業に至るまであります。だから働く所職場はどこにでもいくらでもある無限にある！八百万人の人々が何かの行動をして働き、生存競争に打勝とうとしているのです。片田舎の山間から上京したいと思う人は、意志強固で裸一貫の気持で上京しなければ東京の人間に呑まれてしまう。恥かしい話しですが、私は一ケ年間に八回（八種）の職業を変えました。仕事のいやさからではなく人間社会の流れ行く清きいう濁流に、無限の欲望です。しかし私の満足とはその時代の社会生活に於て自分の働き得る所得内での瞬間的満足の連続です。知人でイヤダ〳〵といゝながらも仕事をしている人もあり、食うがために働くないと思います、又仕事は飯よりも好きだという濁足型もいます現在の芸能界のように若くしてはなやかな生活に甘んじている人もいますが、数少ない事です。この様なものに「アコガレ」てはいけないと思います。社会とはその様なものではなくステップそして又ステップです。人間はどん底の生活より一歩々々脱皮することです現在自分はどん底なる所にて上を見あげて脱皮の基礎に務めております。人生はまず自分の適職を見出し基礎から始めるべきと反省するものです。発刊に当り同窓会役員始め同窓生諸氏がいつまでも発刊のとき善の気持を深く持ち私事はじめ後輩を導いて下さる様念願してやみません。（シエル石油新潟布給油所勤務）

思うこと

電力科二期生　會田徳雄

後輩と共に

建設一期生　橋本正美

アカシヤ学園は年毎に成長していると観る向きが多い。又一般地域環境の感想も又そうである。成長していると言う事は学生個人の学生的存在を明確に一般社会に示して来たことであり、又社会の荒波に突入した先輩の日夜の努力と実力の発揮であると思われます。学生の評判が悪いとか、又良いとかと言う問題は実質的には大多数を対象とすべきであるが、一般社会は一部少数の者の動展、徳性を外視する事によつて全学園及び先輩を批判する場合が多く、学生々活の一断面を以つて総体を律する危険性がある様に思われる。この危険生をおかすものは全体的には九件の一件にも過ぎないものであることを私は信じる。社会のそしりを免れるためには個人々々生道を求め活歩する事にあると思われる。

それには学究精神の旺昂は一般社会通念を忘れず技術又学を中外に発揮する事であるし、又アカシヤ学園に学びたるエンヂニヤに負荷されるものは時代の尺度を決定する事にあると思う。又大きく言えば日本の尺度を決定し世界に新なる文明を築きあげる事にあると言う決心をもたねばならないと思う私達は現代と対して返向しなければならない。又現代文明に反動しなければならない現代文明に対し徹底的否定の闘いを決意し行動しなければならない。それは社会に対する新たなる尺度を確立することを使命とするからである。

そのためには左右思想に偏しない人格を作り偉大なる思想の確立により社会の発展の実現の唯一の担当者となる事に努力しなければならないと思う。

今私は後輩と共に広大な草野、アカシヤ並木とゆるやかに流れる阿武隈川にあつて真理の探究を目指している者である。

アカシヤ学園に学びたる学友の成功と母校の発展を期待する次第である。

私の部屋のAさんが、ある大学教授Kさんにエステルを作つてくれませんかという仕事をたのまれて私がそのエステル生成に着始しました。四～五時間後に二・三のエステルを持参して見ていただいたところ、「ほゝう、やつぱりこれはエステルを生成する。よく出来たなあ」という言葉を聞いてすつかりのぼせてしまいました。それからというものは仕事に自信がついて来たというわけですが、まあ先づ成功するには、成功することが一番ということに気がつきました。

次回の会報には、タバコあれこれについて話をしようと思います。（日本専売公社中央研究所勤務）

校内現況

充実する各科

NHK RFC 二放送局の電界強度測定

日毎に発展を続ける各科の現況をさぐつて見よう。

❶現職員名、❷生徒数、❸現在迄の動向、❹新らしい設備、❺実験実習内容、❻今後の予定（方針）

立體授業の實施

▽建設科

㊀鈴木昭、遠藤義男、須郷昭、菅野健、橋本佐俊　㊁一年百三十九名、二年百四名、三年六十九名、㊂建設科初の女子生徒入学、㊃トランシット五台、各種模型、コンクリートミキサー、バイブレタ、スライド一セット、㊄三千年、三千一年度百八十万円交付、㊅立体的授業

電界強度の測定

▽電気科

㊀佐久間亨、三井徹、増井弘明、遠藤達雄、助川利正、富田一二、小林健　㊁一年百二十七名、二年百十九名、三年百二名、㊂電気科初の女子生徒入学、㊃卓上ボール盤、グラインダー、ダブルブリッヂ、撚線機、㊄高周波第二実験の完備、高電圧実験室の完備、郡山市内二放送局電波の電界強度測定、㊅二十八年度二百四十万円交付、三千三年度百二十万円予定、マイクロウエーブ各種実験、送信機、無線局の運用、電力科は電模三種、通信科は二級無線技術士の取得を目指している。

實習に重點

▽機械科

㊀加藤五良、松崎金宏、太田務、一色忠夫、渡辺和夫、荒井四郎、金子勇蔵、栗原實衛、安部千代吉、五十嵐徳蔵、㊁一年百二十八名、二年百二十二名、三年九十九名　㊂溶解炉、直結旋盤三台、鍛造炉三基（四分の一トン月一回）㊃基礎実験は大学の設備を利用、㊄三十三年度六十万円直立ボール盤、金属顕微鏡一セット、各種ゲージ類㊅実習に重点を置き希望者には溶接の免許を取得させる。

イオン交換樹脂裝置

▽工業化学科

㊀石川守、生方光生、神戸徳蔵、生天目貞子、佐藤信之、㊁一年百四十一名、二年八十三名、三年三十四名、㊂熱研式熱量計、電気滴定装置、オートクレーブ、化学天秤十台、イオン交換樹脂純水装置㊃二十八、九年百二十万円交付、生産との結びつきを強くし、現場にすぐに使える人間。㊅実験室（定量定性、光化学、工業化学）の完備。

専門科に女子

建設三名電通一名

入学の動機をたずねて見ると、中学時代先生とか本に影響され、実業科目を選んだと言う。電通のIさんは「通信分野に女性が進出するのもこれからは必要だと思う」とのべ、建築科のある生徒は「男の設計と女の設計では自ずからアイデアが違うから内容も当然異つて来ると思う。そう言う点女性の意見を取り入れた建築設計がこれからの建築界には、必要になつて来ると思う」と言つて居た。又将来はデザイナー等を希望して居り大学にも是非進みたいと語つて居た。学業成績はクラスの上位にあり、結婚後も続けたいとの事で、その固い決意に圧倒されそうだった。担任のS先生は「実習等も男にない精確さを求める」と言う。又普通科には一、二年合わせて十数人居り、皆な大学進学を希望して居る。ともあれ荒野の中の花のごとく男子生徒には良い刺戟となつて居る様だ。

活潑な研究會

自動車部、滑空部

日本大学郡山学園自動車研究会高校部では、荒井教諭を中心に部員十名、練習車二台をもつて昨年四月発足した。昨年の免許取得者は小型者二名、普通車一名で今年は予算五万円、部員十五名となり、個人負担額月千円で活発に練習して居る。今後は職員用一台、生徒用一台を増車し、完全解体、完全装備等の研究を進める予定。又東北で始めて之言う滑空部ではプライマリー機（初級機）を購入し佐藤操縦士の指導のもとに学園東側サッカー場にて風向きを気にしながら練習に余念がない。

私の職場

高原広康　工化二期生

三十年の春、学校を巣立つた私は時を殆んど同じにして社会人となつた。薬品やタバコ臭い実験室に入つて仕事し始めた頃は見物、聞くと一切がもの珍らしかつた。

学校の図書館にない外国の文献を約一ケ月ほど目を通して読んだけれど、何も理解出来なかつた。しかしそのうちにこの研究所でやつている事業概念を聞いてからは少々眼前が明るくなつて来ましたが（実験器具を操作するまでにはゆかなかつた。工業化学科を卒業する前にもつと実験を行つて、経験を積んでおけば良かつたと思つたけれどあとの祭で再出発することになつてしまつたのである卒業された当時は誰でもそうであつたろうと思います。

東京の環境や、実験する上のある程度の知識、それに言葉に訓化しようとしても簡単にゆかず、全てにおいて閉口だつた。

この辺で我が研究所を紹介しよう私は上京してすぐ下宿したが、そこのおばさんに専売公社の研究所ではどんなことをしているんですかという質問を一番最初に受けたその時は入社以来日が浅いので適当な返事しかいわなかつたけれど今日になつてからはこれがいえるようになつた。

専売事業には皆さん御存知の様にタバコ、塩、樟脳の各部門に分れております。（樟脳が専売事業の一つであることを御存知でなかつた人も相当いたかも知れません）それで私の所属なる研究部は、生産、製造、材料という三つに分けられますが、この中製造関係について一寸ふれてみよう。

現在研究中の葉たばこ精油成分、それに香料がありますが、この二つは切つても切れない相関係にあります。たばこ葉の精油は、ニコチン類（塩基性部）アルコール炭化水素類（中性部）有機酸類（酸性部）フエノール部、カルボニル部とに大きく分析して、各々を更に分析してみると（これは大変困難な操作ですが）数ミリグラム位のものに分析されてゆきます。この数ミリグラムというのは、たばこ葉を二〇〇瓩も使つて、この位の量の単体成分しか得られないのです。たとえば二〇〇瓩の原料から精油をとり出して、分析してみますと、二ミリグラムのナフタレンや五～六ミリグラム位のニコチン酸等こく少量のものが得られるだけです。微量分析ということになります。あまり専門的なことになりましたが、本当に難しい仕事には相違ありません。

あれこれ

皆んなでお茶を

建設科一組四期生の中、京浜地区居住者は、建友会というクラス会を持ち、毎月第一日曜日の午後七時に、上野西郷さんの銅像前に集まつてお互に近況を語り合い、また映画やお茶でひと時を愉快に過し、明日への励ましとして居る。皆さんも是非如何です。

京濱支部役員名及び住所

▽国分　弘（神奈川県川崎市白石町一東京電力汐田火力発電所寮内）

▽清水曄祐（横浜市鶴見区汐田町四ノ四一日本鋼管汐田寮）

▽山内　稔（東京都目黒区中目黒二ノ三五二福田方）

▽平田宰二（東京都豊島区要町一ノ二九）

▽大山照夫（東京都北多摩郡小金井町貫井六一三）

▽村上邦夫（東京都江東区深川三ノ九深川消防署内）

▽会田徳雄（東京都調布市佐須町三八）

▽高原広康（東京都大田区雪ケ谷九一三日本専売公社中央研究所雪ケ谷寮）

題号について

題号「桜朶（おうだ）」は桜の枝がしだれると言う意味で、桜の幹（本部）から分れる枝（支部）更に分れる細枝（会員）が、互に一つ幹に繋がつて大木に育て上げようと言うものである。

尚これは編集部案による仮称であるが、第三回総会に於て正式に決定致します。

消息欄

電気科佐久間亨先生病気入院中。

お知らせ

クラス会及び会員の住所、職業の変更、その他の消息を本会運営上必ず本部宛連絡して下さい。

▽広い徳定の野、阿武隈の流れに夏雲が溶け込み、老校舎を囲むアカシヤの緑も夏の暑さを増して居る。懐しい母校の風景である。

▽発会以来の懸案であつた会報も愈々発行の運びとなつた。第一号のことでもあり、やはり編集子も少なからず苦労したが、不備な点は御了承願いたい。

▽本紙を通じて、北海道の人も九州の人も、又テレーションの異なつた人々も、同窓という名の下に親しく話し合える機関となる事が出来る様編集子も微力ながら努力する考えですが、今後共本紙に関する忌憚のない御批判と助言をお願致します。

▽今回は特にお願して寄稿していただいたが、今後は少くとも年一回の発行を予定して居りますので諸君の職場雑感や生活記録及その他をお送り下さい。

▽第一回発刊に当り御協力を頂いた編問の遠藤先生始め各先生方に厚く御礼申上げます。